



エンサイス スナップショットデータ

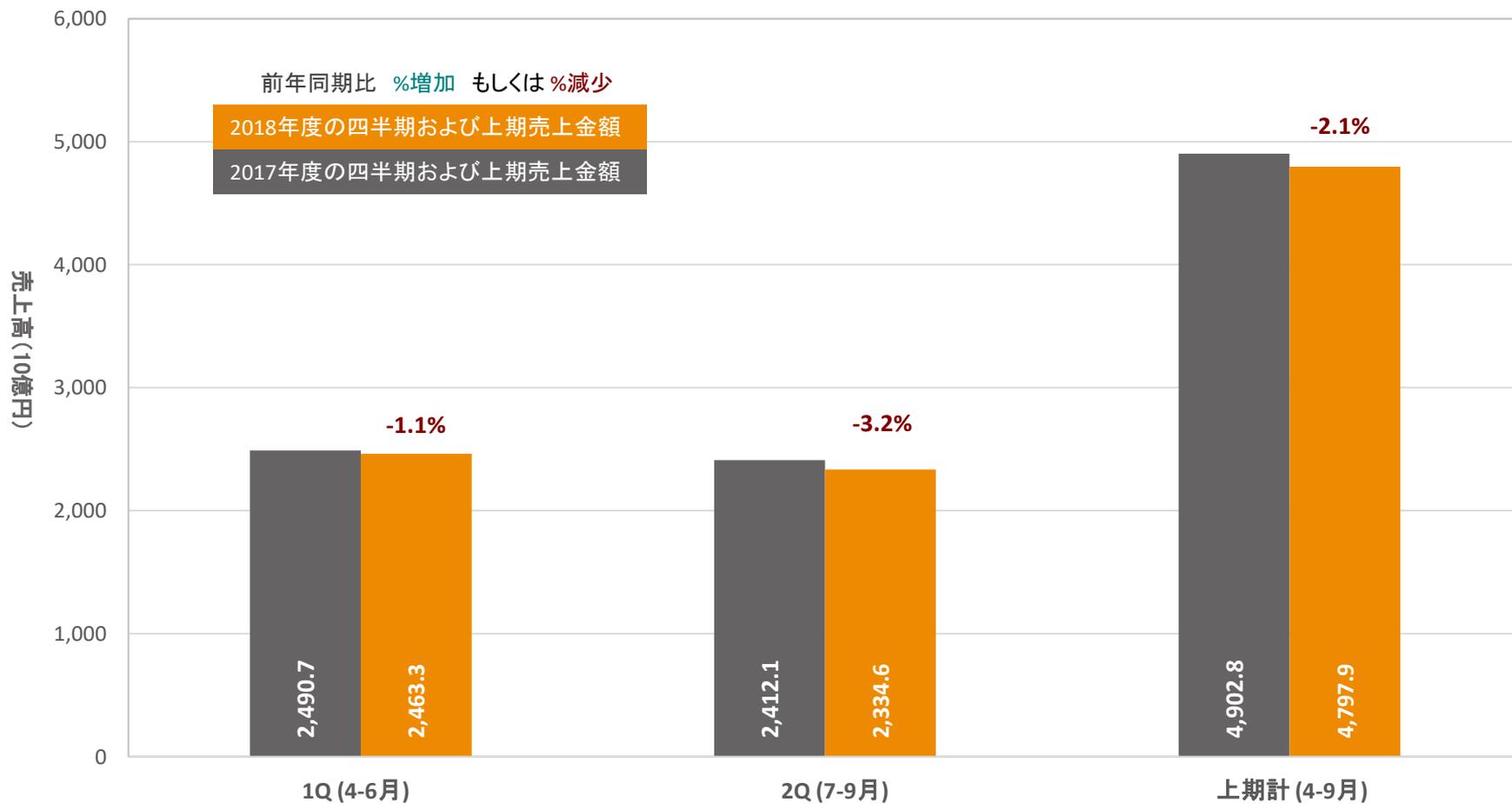
(薬価基準ベース)

2018年度上期
(2018年4月 ~ 2018年9月)

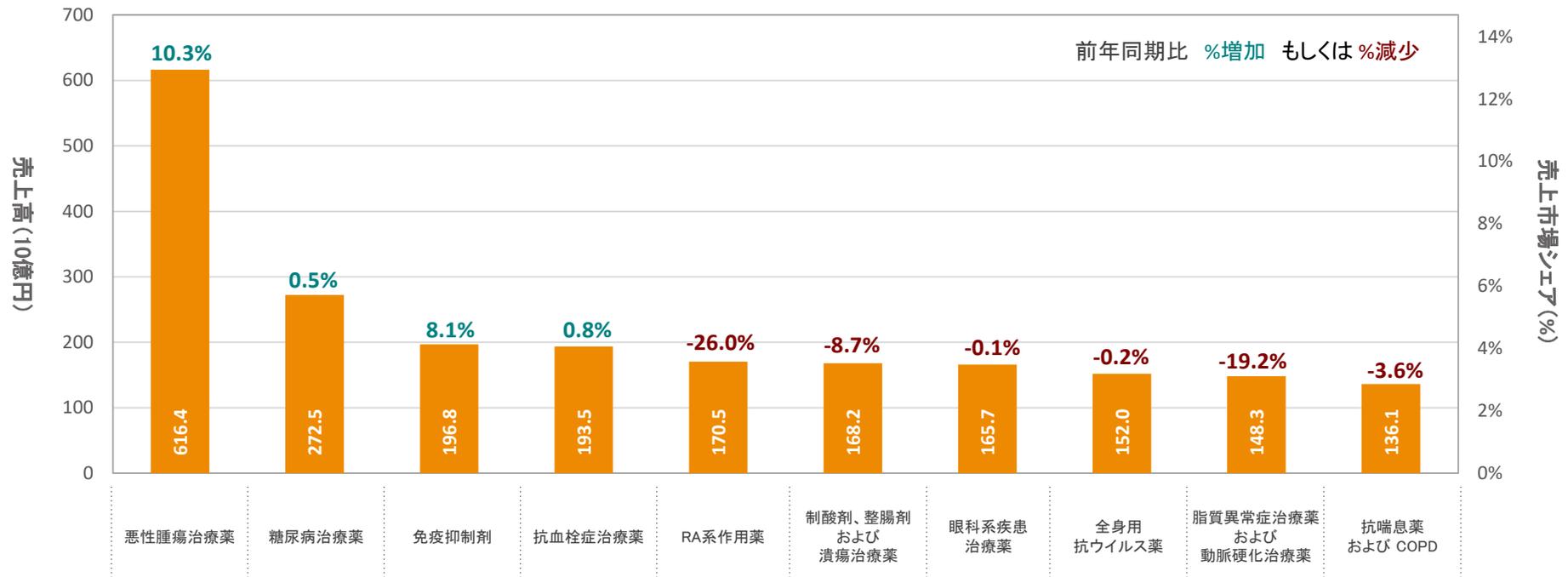
免責事項: 本レポートは、当社が収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、当社は本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。

別段の表示がない限り、本レポートに含まれる内容の一切はエンサイスが所有し、エンサイスは、本レポートに含まれ、明示され、又は関連する一切の権利(著作権を含みますがそれに限られません)を留保します。これらの権利は法によって保護されています。エンサイスより事前に書面による同意を得て、かかる同意の範囲で行う場合を除き、本レポートを第三者に譲渡もしくは利用させ、又は本レポートの内容を引用、転載もしくは複製することは認められません。

過去との比較（前年同四半期比および前年上期比）

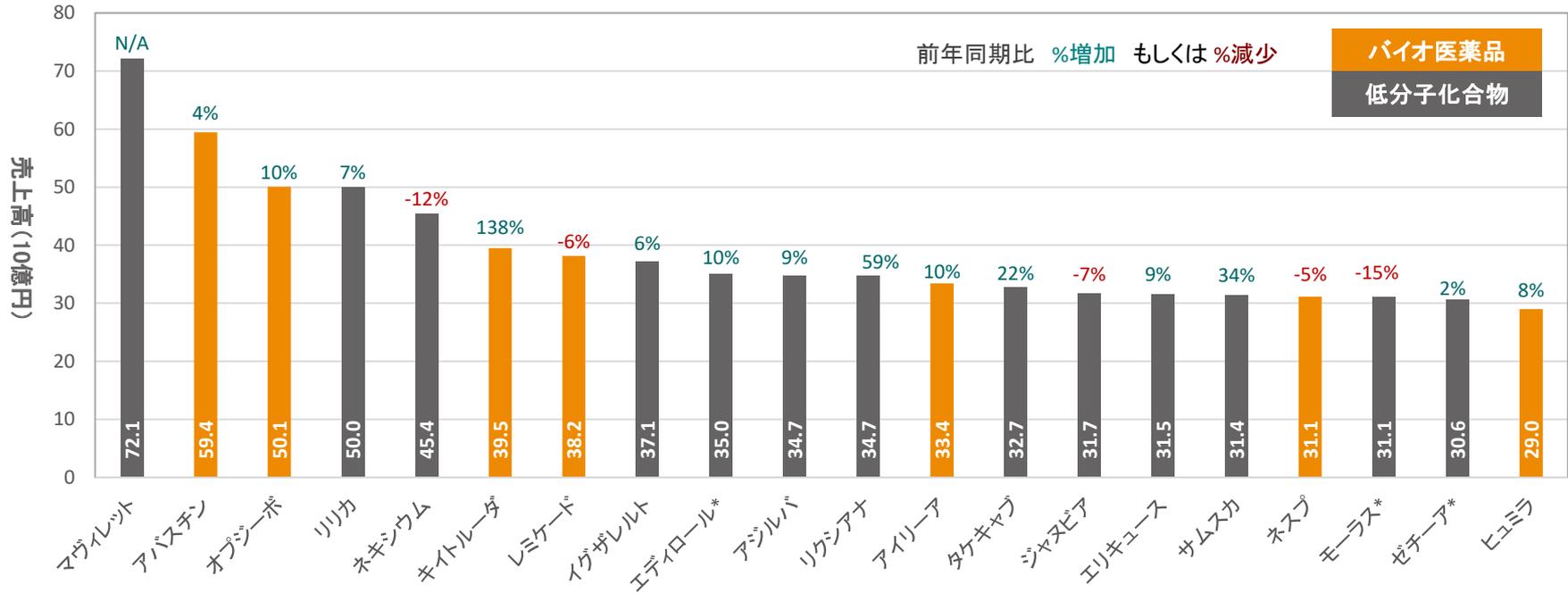


医療用医薬品売上上位10薬効分類



- 上位10薬効分類の売上金額は2兆2,202億円(前年同期比1.8%減)であり、医療用医薬品市場全体の約46.3%を占めている。
- **悪性腫瘍治療薬(オンコロジー)市場**: キイトルーダ(上期売上金額395億円、前年同期比138%増)、オプジーボ(同501億円、10%増)と同様、イブランス(パルボシクリブ、ファイザーが販売、同115億円)、ダラザレックス(ダラツムマブ、ヤンセンが販売、同75億円)、テセントリク(アテゾリズマブ、中外製薬が発売、同51億円)などの新薬が本薬効の二桁成長維持を支えており、ハーセプチン(トラスツズマブ、中外製薬が販売、同170億円、19%減)とTS1(テガフル、大鵬薬品工業が販売、同45億円、60%減)、リツキサン(リツキシマブ、中外製薬が販売、同147億円、38%減)の売上鈍化分を補った。
- **RA系作用薬市場**: 4月薬価改定と後発医薬品やオーソライズドジェネリック(AG)の成長により、本薬効は前年同期比26%減。オルメテック(第一三共)単体で約270億円減少し、売上金額は99億円となった(同74%減)、テルミサルタンとその配合製剤(ミカルディス、ミカムロ、ミコンビ)先発品合計で230億円減少した(同61%減)。
- **脂質異常症治療薬および動脈硬化治療薬市場**: 前年同期比19%減の理由は、主に Crestor(同144億円、72.5%減)の売上鈍化と後発医薬品参入、薬価改定による。

医療用医薬品売上上位20製品



定義：バイオ医薬品 - 分子標的薬、生物由来製剤など | 低分子化合物 - 低分子医薬品

* 併売企業による合計売上高

- 2018年度上期において、上位20製品の売上金額は7,789億円であり、全医療用医薬品の16.2%を占めている。
- 同期間の上位20製品の売上金額比率は2017年度上期と比較して1.2ポイント増加した。主にマヴィレット(売上金額721億円)上市によるものと思われる。短い治療期間とパンジェノタイプ治療薬として、2017年11月上市以降市場を席卷している。
- 主要成長医薬品**：マヴィレット(N/A)、キイトルーダ(前年同期比138%増)、リクシアナ(同59%増)、サムスカ(34%増)。
- 主要鈍化医薬品**：モーラス(前年同期比15%減、特許期間満了と後発品上市による影響)、ネキシウム(同12%減)、ジャヌビア(同7%減)。
- 2018年度上期に上位20製品入りした医薬品(前年同期比)：マヴィレット、キイトルーダ、リクシアナ、タケキャブ、サムスカ、ヒュミラ。
- 2018年度上期に上位20製品から外れた医薬品(前年同期比)：クレストール(上期売上金額144億円、72%減)、オルメテック(同99億円、74%減)、ハーボニー(同115億円、61%減)、リュープリン(同262億円、7%減)、セレコックス(同282億円、2%増)、メモリー(同288億円、5%増)。